

幼児が友達と体を思い切り動かして遊ぶ楽しさと学びを育むための 計画・実践・評価についての理解と意義

初等教育科 石川 千穂子

【要旨】

昨今の子ども達の体力・運動能力は低下傾向を示したのち下げ止まりの傾向状況にある。

そこで、「子ども達が外で体を使ってあそばない」理由を考えて見ると、テレビゲームの普及、塾の早期化、子どもをねらう犯罪の増加、交通事情の悪化、遊び場不足などが考えられる。このような生活環境の変化が、子ども達の遊び等に影響を及ぼしていると推測できる。

また、それに伴い子ども達の「心」と「体」の両側面も影響を受けている。「幼稚園教育要領」においても、幼児の興味の広がりによって展開するさまざまな活動を通して、十分に身体を動かし、活動意欲を満足させる体験を積み重ねることが、身体の調和的な発達を促すうえで重要な意味を持つものであることに留意しなければならない。さらに、心と体の発達を調和的に促すためには、特定の活動に偏ることなく、様々な活動に親しみ、それらを楽しむことで心や体を十分に動かすことが必要であり大切だと述べられている。また、現在学生の実態を見ても、遊びの経験が希薄であることが伺え、そのことが課題でもある。

今回の実践では、幼児が友達と体を思い切り動かして遊ぶ楽しさを味わい、学びにつないでいく遊びに運動遊びが望ましいと考え、教職課程を履修する学生にとっても、教育現場における運動遊びについてどのように活動を計画・実践・評価を行い次につないでいくのか、保育実践力を養う意義や理解について考えることが必要と思われる。グループで運動遊び模擬保育を通して、計画、実践、評価を行い、その意義について理解できるように授業実践を行った。

【キーワード】

体を思い切り動かす 模擬保育 運動遊び

1. はじめに

幼稚園教職課程における「領域に関する専門的事項」の科目新設、新課程（平成31年以降）の幼稚園課程では、「領域に関する専門的事項」の科目区分が新設され、「幼児と健康」等の新たな科目の設置が求められ初等教育科においても令和元年度から幼免新課程への対応のための科目に変更されている。

「幼児と健康」等「領域に関する専門的事項」

の教育内容については、「幼稚園教諭養成課程のモデルカリキュラム」を参考に検討することが求められ、全体目標「領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等の専門的事項についての知識を身に付ける」一般目標1. 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。2. 幼児期の身体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。3 安全な生活とけがや病気の予防を

理解する。4. 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。の目標に遵守しながら自由な授業展開を心がけ行なっている。

今回の実践は、「幼児と健康」科目において、特に目標4について学生の理解が得られ保育実践力向上につながるようにと考え、具体的に教育現場で行われている運動遊びについて模擬保育を計画、実施、評価する中において理解を進めていき、その意義を考え保育実践力を養うことを目的とし行ったものである。

2. 授業の実践

「幼児と健康」の科目は1年次の後期に15回行われる科目である。(演習)。15回実施するうちの8回目～11回目を本試みに当てた。座学1コマ(90分)の後、グループ指導案作成、指導案審議(演習)を(90分×2)2コマ設定し、グループ模擬保育、評価を1コマ(90分)、クラス発表と評価1コマ(90分)といった流れを授業内容に盛り込んだ授業計画で実施をした。

(1) 模擬保育(運動遊び)についての座学(90分)1コマ

- 1) 目的：これまでの専門知識や事例研修等を生かしながら、子ども達が興味・関心をもち、体を十分に動かして主体的に楽しく取り組めるように、運動遊びの活動決め、保育指導案作成や教材研究、実践、評価をしながら保育実践力を養う。
- 2) この活動を通して子ども達に経験してほしいこと：自分から体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わうとともに、友達とルールを守ったり考えたりして遊ぶ楽しさを体感する。

(2) 運動遊びのグループ模擬保育指導案作成(90分×2)2コマ

- 1) 個人で、教材研究カード(図2)をもとに指導案を作成する。
- 2) 指導案審議、グループ指導案作成

この活動を通した子ども達への願いをもとに、子どもの姿や援助等について意見交換、指導案審議、グループ指導案を作成する。

授業回数・日時	項 目	内 容
<第1回授業>	<ul style="list-style-type: none"> ○模擬保育について <運動遊び活動例> <ul style="list-style-type: none"> *鬼ごっこ *約束手遊び *積み木遊び *高跳び等 *わらべうた遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ○意識しをもち主体的に取り組めるように模擬保育についてのねらい、日時、内容等を書く。 - 20分程度の活動 - グループ毎に模擬保育の活動決め - 個人で教材研究、指導案作成 - グループで話し合い、指導案作成、実践 - 次回の活動につながるような評価(クラスディスカッション)
<第4回授業>	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ毎に模擬保育の活動、教材決め <第3回授業までの課題> <ul style="list-style-type: none"> グループで決めた運動遊びの教材研究カード 	<ul style="list-style-type: none"> ○模擬保育の授業時はグループ毎に発表する。 - 1グループ(3~7名)(5グループ) - グループ模擬保育後に運動遊び・活動名・役割を記入 ○模擬保育者以外は、子ども役。 ○見通しをもって主体的に取り組む。 - 教材研究カードは第8回授業時に提出
<第9回授業>	<ul style="list-style-type: none"> ○個人で、模擬保育指導案作成 <ul style="list-style-type: none"> - 運動遊びの指導案作成について - 教材研究シートをもとに指導案作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで決めた運動遊びの教材研究をしながら保育指導案を個人で作成する。 - 授業内で作成し、提出。 - どうしても完成しない場合は、翌日まで最終準備指導案ボックスに必ず提出
<第10回授業>	<ul style="list-style-type: none"> ○各自が考えた模擬保育指導案をもとにグループでの話し合い ○グループの模擬保育指導案作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○この活動を通して子ども達への願いをもとに、子どもの姿や援助等について、積極的に意見交換をする。 ○グループでの運動遊び模擬保育指導案を作成し提出する。提出日は、授業後2日以内。 ○模擬保育者、グループ模擬保育者に環境や援助について工夫点や改善点を話し合ってもらい、提出する。
<第11回授業>	<ul style="list-style-type: none"> ○模擬保育① <ul style="list-style-type: none"> - グループ毎に運動遊びの模擬保育を実施 - グループ模擬保育での振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス全体で模擬保育の目的に沿って成果や課題などを話し合い、子どもにとっての運動遊びの意義や保育実践力に繋いでいるようにする。 - グループ模擬保育(運動遊び) 評価表提出

図1 R3「幼児と健康」模擬保育(運動遊び)について

学生に模擬保育実施までの活動の見通しを持ち主体的に取り組めるように、(運動遊び)模擬保育について表に示し理解しやすいように計画した。

さらに各グループの模擬保育指導案作成までは、運動遊びの活動を決めた理由やねらいに沿った子どもの予想される姿、そのためにはどのような環境を設定すればよいのか等を提案した。環境構成や援助について教材研究に取り組めるように、活動の指導案作成を考え、教材研究カードに記入、次に指導案作成とした。

学生に提示した教材研究カードは、次の図2である。

R3「幼児と健康」 < グループ指導保育 教材研究カード

幼稚園 1 年 () クラス学籍番号 () 氏名 () 第 6 回授業提出日 11 月

活動名	
ねらい	
活動を選んだ理由	
子どもが楽しく主体的に取り組めると思われる姿	
その姿を支えと思われる環境構成や援助	< 環境構成 > < 援助 >
< 教材研究 > ・ 準備物 ・ 環境図 ・ 遊び方 ・ 遊びのルール ・ 保育者の関わり方等	

図 2-1 運動遊び教材研究カード

教材研究カード作成時の学生の反応

- ・ いきなり保育の指導案を書く前に、保育についての考え方として教材研究カードを作成したので、比較的指導案作成に取り組みやすかったと感じた。
- ・ 実際に活動してみると、頭の中だけで子どもの姿を予想してその姿を支えたと思われる援助や環境構成を考えることは難しかった。
- ・ 友達と一緒に実際に一度体を動かしてみて、考える必要があると思った。
- ・ 考える要素が教材研究カードに示されていたので、子どもの姿を予想しやすかった。そして、それについてどのような準備や声かけをしていけばよいのかと、具体的に考えることができた。
- ・ 教材研究カードの中に、ルールについて、場所などを下調べしなくてはいけない項目があったので、「どのような手立てでルールを伝えていけばいいか」と考え、調べることができ考えやすかった。

・ グループのメンバーで実際に「かくれ鬼」をしてみた。そして自分も隠れてみて楽しいと感じ、子どもの楽しむ姿を予想することができた。教材研究をする時は、自分から動いて見ないと分からないと感じた。

以上学生の感想から、教材研究カード作成することで、活動に対しての見通しをもつことに繋がり「カード作成があって良かった」という意見が多く聞かれた。

R3「幼児と健康」 < グループ指導保育 教材研究カード

幼稚園 1 年 () クラス学籍番号 () 氏名 () 第 6 回授業提出日 11 月

活動名	かくれ鬼
ねらい	・ 身体を動かす楽しさや喜びを味わう ・ 隠れかくる楽しさや怖さを感じる
活動を選んだ理由	・ 秋の行事として自然に馴染みやすい活動 ・ 運動するの楽しさを学びたいから ・ 友だちと協力して遊ぶ楽しさを学ぶ
子どもが楽しく主体的に取り組めると思われる姿	・ 隠れかくる楽しさや怖さを感じて遊ぶ姿 ・ 友だちと協力して遊ぶ姿 ・ 隠れかくる楽しさを伝える姿
その姿を支えと思われる環境構成や援助	< 環境構成 > ・ 隠れかくるための隠れ場所を用意する ・ 隠れかくるための道具を用意する < 援助 > ・ 隠れかくる楽しさを伝える ・ 隠れかくる怖さを伝える ・ 隠れかくる楽しさを伝える
< 教材研究 > ・ 準備物 ・ 環境図 ・ 遊び方 ・ 遊びのルール ・ 保育者の関わり方等	・ 準備物 ・ 環境図 ・ 遊び方 ・ 遊びのルール ・ 保育者の関わり方等 ・ 準備物 ・ 環境図 ・ 遊び方 ・ 遊びのルール ・ 保育者の関わり方等

図 2-2 学生が作成した教材研究カード (抜粋)

指導案作成への取組について

今までも保育活動の指導案作成を行い、保育指導案見本を示してこれをもとに作成するという形式で実施した。その際、スムーズに作成できる学生もいるが、作成が難しく苦慮している学生もいた。そこで、指導案を書く前の段階で、具体的な子どもの姿や予想される援助などが具体的に頭の中で描き出されていれば書き表しやすいのではないかと考えて、教材研

究カード作成を実施した。次に、グループ模擬保育活動は、一グループ6人で行った。しかし、まずは一人ひとりが保育指導案を作成することで、自分の思いや考えをグループの指導案に反映できるように工夫した。

学生は、実際に作成していく上で、「グループで一つの指導案として表していくから一人ひとり書くのって面倒」と思っていた。しかし、教材研究カードから指導案に書き表していくうちに、頭の中で保育の様子がシミュレーションでき、やはり一人ひとりが保育者になり書き表す意味があると思った。と感想を述べた。

図3 指導案

実際作成したグループ指導案

図3-1 (個人で作成した指導案)

グループの意見を反映させて作成したグループ保育指導案である。

図3-2 (1つにしたグループ指導案)

図3-2 (1つにしたグループ指導案)

(3) 模擬保育実践、評価 (90分1コマ)

- 1) 模擬保育実践20分
- 2) グループ毎に評価をグループ模擬保育表により行う。(図4)

図4 グループ模擬保育表 (評価)

図4 グループ模擬保育表 (評価)

R3「幼児と健康」 グループ模擬保育表（評価）	
＜第10回授業時提出＞ R3.12.2（木）	
初級1年（B）クラス①	
項目	内容
運動遊び活動名	おにあげび
グループメンバーと役割 (6~7名)	○リーダー () ○グループ模擬保育者 () ○グループ模擬保育指導案作成・提出責任者 () ○グループ模擬保育助働・写真作成責任者 () ○クラス模擬保育発表責任者 () ○グループ模擬保育者、記入提出責任者 ()
子どもが楽しく主体的に取り組めたと思われる姿	・先生が子どもたちに問いかけを繰り返す ・2回目より、1人1人家庭で遊ぶことまでではない ・自分の思いを伝える場面を作る ・おにあげ仲間を助ける
その姿を支えたとと思われる環境構成や援助	< 環境構成 > ・おにあげも、おにあげの準備を ・ < 援助 > ・おにあげの準備を繰り返して、準備が ・おにあげの準備を繰り返して、準備が ・自分の思いを伝える場面を作る
今後の活動に向けての改善点	・まよふシート ・家がない
このグループ模擬保育（運動遊び）を通しての感想や学んだこと	実際に指導案通りやってみると、子どもたちの反応や、行動による高揚感や変化に対応しきれなかった場面があることがわかった。そのためにも指導案を作成する前に、遊びの場面を想定して、おにあげの準備を事前に確認しておく必要があることに気がついた。

○実際の模擬保育表（抜粋分）

R3「幼児と健康」 グループ模擬保育表（評価）	
＜第10回授業時提出＞ R3.12.2（木）	
初級1年（B）クラス②	
項目	内容
運動遊び活動名	陣とりゲーム Sケン
グループメンバーと役割 (6~7名)	○リーダー () ○グループ模擬保育者 () ○グループ模擬保育指導案作成・提出責任者 () ○グループ模擬保育助働・写真作成責任者 () ○クラス模擬保育発表責任者 () ○グループ模擬保育者、記入提出責任者 ()
子どもが楽しく主体的に取り組めたと思われる姿	・ケンケンをする事 ・陣取りをする人に向けて ・宝をさがす事 ・手おしやもうをする事 ・責める人と守る人を作戦で決めたこと
その姿を支えたとと思われる環境構成や援助	< 環境構成 > ・ぶつからないように大きくSを作った ・宝をとりやすいようにカップの上においた < 援助 > ・頑張ると応援する ・子どもが遊びを理解しているか声かけをして確認する
今後の活動に向けての改善点	・ルール説明を簡単にまとめる。 ・チームは事前に決めたルールを明確に説明すること。
このグループ模擬保育（運動遊び）を通しての感想や学んだこと	・先生がルールを理解していないといけなくて、自分もよくわからないので、子どもに説明することになった。子どもに説明することになった。5歳児が遊びに使うルールは簡単な方がいいかなと思いました。

図4 グループ模擬保育表（評価）

評価は、模擬保育のねらいに沿って、質問紙調査形式、及び自由記述形式で行った。

質問内容は、1. 子どもが楽しく主体的に取り組めたと思われる姿2. その姿を支えたとと思われる環境構成や援助3. 今後の活動に向けての改善点についてである。

<評価1>「子どもが楽しく主体的に取り組めたと思われる姿」についてのまとめ

- ・保育者が子ども達に問いかけを行っている所や「○○ちゃん頑張ってる」など応援をしている姿。
- ・鬼から本気で逃げる真剣な姿。
- ・保育者の説明をよく聞き、自分から「早くやりたい」などの言葉を発して、友だちと一緒に元気に走り回る姿。
- ・自分でどうすれば沢山の物が倒れるのか考えて投げている姿や、上手に倒れた友達を見て真似している姿。
- ・子ども同士で手をつなぎ歌いながら遊ぶ姿。
- ・責める人と守る人を作戦で決めたこと。等グループごとに話し合い、意見を出し合ってためていた。

模擬保育を実施するにあたって「子どもが楽しく主体的に取り組む姿」を教材研究カードでそれぞれ学生が予想し指導案を作成。さらにグループで一つの指導案にまとめ実施するという、ねらいに沿った計画で模擬保育を行ったので、主体的に取り組む姿について詳しく表せると予想していた。予想に反して、「研究カードよりももっと違うところだったね。」と子どもの姿について考えることが難しかったように受け止められた。しかし、予想していたからこそ違いが分かったことは、成果であると考えられる。

<評価2>「その姿を支えたとと思われる環境構成や援助」についてのまとめ

- ・転んでもいたくない芝生という安全な場所。
- ・ぶつからないように大きくSの文字を作った。
- ・宝を取りやすく設定したこと。
- ・ピンを置く位置を子どもに分かるようにした

こと。

- ・十分に走ることができる広い体育館の場所。
- ・子どもが遊びを理解しているかどうか確認しながら声をかけたこと。
- ・自分の思いを伝える場面を作ったこと。
- ・子どもが考えることが出来るような声かけ。
- ・うまく倒せない子どもに対して、子ども同士でコミュニケーションが取れるようにした援助。
- ・共感する声掛け。
- ・保育者が遊びの手本を見せ、一緒に真剣に遊んだりうたったりした姿等があげられる。

環境構成については、予想通りに活動ができた。援助については実際に行って見て「〇〇という言葉を入れた方がより子どもが理解しやすかったのではないか」等具体的な環境構成や援助がどのグループからも聞かれた。

このことは、教材研究カードが生かされた成果と思われる。

<評価3>「今後に向けての改善点」についてのまとめ

- ・跳ぶ場所を考え、縄の回し方等の教材研究をさらに行い楽しくする。
 - ・「なべなべそこぬけ」のアレンジバージョンを設ける。
 - ・ボールを投げるだけであると全身運動にならないので、助走をつける工夫が必要である。
 - ・ルール説明をもっと簡単にまとめておく必要がある。
 - ・隠れる際に危険だと思われる場所を示す。
- という改善点が出された。

実際に計画、実践をしたからこそ次の活動をする際には、このようにしたら楽しくなる、個々については事前に抑えておく必要がある等の、改善点がどのグループからも評価表で考えることが出来たと思われる。

(4) グループ発表・評価・ディスカッション(90分)

評価（5段階評価）は、質問紙調査形式及び自由記述形式で行った。評価項目は、グループ模擬保育と同じ項目での評価とした。

○グループごとに運動遊びの模擬保育についてクラス全体で発表を行うことで、他のグループ活動について見合うことができると考え実施した。その際的评价も5段階方式にした。

感想としては、同じ運動遊びでもジャンルの違う遊びを見ることができて楽しかった。「的当てあそび」という運動遊びでは、「私達だったらと考えながら見ることができた」などと学生からは、他のグループ発表を聞いて活発でより運動遊びについて具体的な意見があった。この様子から、グループ模擬保育のみではなく、クラス間でのディスカッションをする意義を強く感じた。

グループ評価は、概ね4以上であった。

運動遊びのレポーターが増えて参考になるなどの意見も聞かれた。

番号	運動遊びグループ名	子どもが楽しく主体的に取り組めたと思われる姿	その姿を支えたと思われる環境構成や援助	今後の活動に向けての改善点	評価
1	< 1 > グループ 跳び箱	・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。	・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。	・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。	4
2	< 2 > グループ 陣取りゲーム	・ 陣取りゲームの準備ができた。 ・ 陣取りゲームの準備ができた。 ・ 陣取りゲームの準備ができた。	・ 陣取りゲームの準備ができた。 ・ 陣取りゲームの準備ができた。 ・ 陣取りゲームの準備ができた。	・ 陣取りゲームの準備ができた。 ・ 陣取りゲームの準備ができた。 ・ 陣取りゲームの準備ができた。	4
3	< 3 > グループ 跳び箱	・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。	・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。	・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。	5
4	< 4 > グループ 陣取りゲーム	・ 陣取りゲームの準備ができた。 ・ 陣取りゲームの準備ができた。 ・ 陣取りゲームの準備ができた。	・ 陣取りゲームの準備ができた。 ・ 陣取りゲームの準備ができた。 ・ 陣取りゲームの準備ができた。	・ 陣取りゲームの準備ができた。 ・ 陣取りゲームの準備ができた。 ・ 陣取りゲームの準備ができた。	4
5	< 5 > グループ 跳び箱	・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。	・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。	・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。 ・ 跳び箱の準備ができた。	4

図5 グループ模擬保育評価表

グループ模擬保育を実際に行っている様子



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

(5) グループ模擬保育発表

各グループ5分で発表、その後評価



写真7



写真8

パワーポイントを使ったグループ模擬保育発表の様子

(6) 学生におけるグループ模擬保育を通しての感想・学び

グループ模擬保育（運動遊び）を通しての学びや感想を記述式で調査した。

- ・実際に指導案通りに行おうとしても、子どもの反応や行動によって臨機応変に対応しなければいけない場面があると学んだ。その為にも指導案作成で、子どもの姿をより詳しく考えねばならないと感じた。
- ・保育者が運動遊びについての遊び方、ルールをしっかりと知っておく必要があると感じた。5歳児対象にと考えたが、ルールが簡単な方がより楽しく遊べると思った。
- ・指導案通りに自分なりに動いたが、思うようにいかないことが多かった。子ども達に、もっとわかりやすい声かけ（援助）を考えていく必要があることを学んだ。
- ・保育者が一番楽しそうにしている姿が本当に良かった。子どもの中には、少し照れ臭い子や乗ってこない子などもあると思われるので、保育者が本気で遊ぶと子どもも本気になれると思った。また、そのようにすることで体を十分に動かして楽しく遊べると考えた。鬼になった子どもも逃げる側の子どもも楽しめるように、保育者が声をかけることが大切だと実際に遊んでみて学ぶことができた。
- ・実際に隠れてみて、楽しさやそして危険な所があることにも気付くことができた。逃げる側は、どこに隠れるか短時間で判断して決めて見つけられたら全力で逃げる等、考えながら運動する楽しさを味わえたと思った。追いかける側は、どこにいるのか見つけ捕まえるために全力で追いかけて、なかなか捕まらないもどかしさや大変さを感じながらも頑張る力をつけられたと学んだ。それぞれ感じる感じが違うので、個々の気持ちに添えるようにしなければいけない。またそのことを指導案に反映しておくとういことに気づいた。
- ・実際に活動する時に指導案がしっかり頭に入っていないと難しいと感じた。さらに、実際に遊んでみて、指導案を書く時には気づけなかった改善点が見つかり、指導案を書いていたからこそよくできたと思う部分もあった。
- ・指導案を作成することで、普段気が付かない所まで深く考え、発見があった。さらに、みんなで一つの指導案につくっていく大変さや必要性も感じられ、これらのことが分かっていると、十分な活動は展開できないかもと感じ、多くの学びがあった。
- ・模擬保育を通して、子ども達がどのように動くのか、どのようにしたら楽しさを感じても

らえるのかを考えることがとても大切だと学んだ。実際に保育者、子どもの立場になって活動することで、保育者の援助、子どもの動きを知ることができた。

3. まとめ

テーマに基づいての成果では、

- ・保育計画立案時に、どの学生も考えやすいように、教材研究カードで具体的な視点を出した。その結果、保育指導案作成に取り組みやすい様であった。
 - ・保育実践では、グループごとに運動遊びを経験できるようにしたことで、どの様な場面で、子どもが友達と体を思い切り動かして遊ぶ楽しさや学びを得るのか等に気付くことができた。また、困ったことから、よりよい援助や遊びを面白くするための方法等を考えることもできた。運動遊びが子どもにとって興味をもって遊べるものであることや、全身を使って体を十分に動かすことになるということを理解できたと思われる。そのことは、グループ模擬保育の評価やクラスディスカッションの感想からも伺えた。
 - ・学生の自己評価やグループ評価では、5段階（5:非常に良い、4:やや良い、3:普通、2:やや悪い、1:悪い）で評価した。全員の学生が自己評価・グループ評価共に4以上の高い評価を示した結果となった。さらに、評価表の記述では、学びのプロセスの中で子どもが主体的に取り組む姿をとらえる難しさにも直面していた。このことは、テーマを意識し取り組んだ結果ともいえるのではないか。多くの学生が模擬保育を実践した達成感や満足感を味わい、体感する大切さにも気づいていた。
- 以上のことから、【要旨】で述べたように、将来保育者となる学生自身が本テーマについて理解できたと評価できる。このことは、今回実施した運動遊び計画、(題材決め、教材

研究、指導案作成)実践、評価という一連の流れとして取り組んだことで、理解できたと考えられる。

4. 今後の課題

- ・今回は、学生が将来保育者になった時にいろいろな運動遊びを知り経験してほしいという願いがあった。そこで、あらかじめ運動遊びの種類(鬼、陣取り、的当て、長縄、わらべ歌)をこちらが提示したが、中には希望しない種類の活動を実践したグループもあった。そのような時は、学生の主体性を大切にしながら、活動決めに臨機応変にしていく必要があると感じた。
- ・「幼児が友達と体を思い切り動かして遊ぶ楽しさと学びを育む」ためには、今回の実践のようにまず学生自身が活動を知り、体感することが必要であると思われる。

そのためには、今後も将来的に子どもの発達にあったねらいをもち、計画・実践・評価を繰り返しながら、次の活動につないでいくこと(PDCAサイクル)が大切であると思われる。

引用・参考文献

- (1)文部科学省(2017)『幼稚園教育要領平成29年告示』
- (2)厚生労働省(2107)『保育所保育指針平成29年告示』
- (3)内閣府,文部科学省,厚生労働省(2017)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領平成29年告示』
- (4)「領域に関する専門事項」のモデルカリキュラム(文部科学省)(<https://www.mext.go.jp/component/amenu/education/detail/icsFles/afidldfile/2017/05/19/13857917.pdf>)
- (5)新訂事例で学ぶ保育内容 領域健康(2018) 無藤隆監修 萌文書林